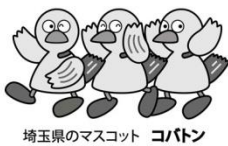


★毎月13日は県内一斉消毒の日です。消毒実施状況の再確認を！



家畜衛生だより

令和7年9月発行 No.7-8（鶏）
埼玉県川越家畜保健衛生所
電話：049-225-4141
（夜間、土日祝日は緊急携帯に転送）
FAX：049-226-9653
Eメール：r254141@pref.saitama.lg.jp

高病原性鳥インフルエンザ発生時の防疫対応方針について

この度、埼玉県では「焼却処理」を選択肢に加えた防疫対応方針を下記のとおり整理しました。

- 1 農場は、死体の「焼却」、「埋却」又は「焼却・埋却併用」のいずれかを選択し、防疫計画※を策定する。
- 2 策定された「焼却」又は「焼却・埋却併用」による計画が適正と認められる間は、当該農場に新たな埋却地の確保は求めない。
- 3 死体を焼却する場合は、原則として汚染物品は封じ込め（消毒）で処理する。

※防疫計画

高病原性鳥インフルエンザが発生した際に、速やかに防疫作業を進めるため、具体的な作業内容や動線を想定した計画です。農場の鶏舎の配置・構造等、資材、人員を盛り込んだ計画を農場毎に作成していただきます。なお、計画には下記の項目等を記載し、内容を家畜防疫員が確認します。

- ✓ 鶏舎の配置・構造
- ✓ 農場で準備する資材や人員
- ✓ 密閉容器封入作業のための場所
- ✓ 封入した密閉容器の一時保管場所



裏面に続きます→

【処理方法によるメリット・デメリット】

<u>埋却</u>	
メリット	<u>防疫措置終了が早い。</u> ⇒ 周辺農場の移動・搬出制限が早く解除されます。 ⇒ 経営再開も早く進められます。
デメリット	<u>再開には新たな埋却地の確保が必要。</u>
<u>焼却</u>	
メリット	<u>埋却地にモノを埋めない。</u> <u>再開時に新しい埋却地を確保する必要がない。</u>
デメリット	<u>原則として、汚染物品は封じ込め（消毒）。</u> ⇒ 封じ込めた飼料等は <u>手当金の対象となりません。</u> ⇒ 封じ込め期間分、経営再開が遅くなります。

* 経営状況等を踏まえて、高病原性鳥インフルエンザ発生時の処理の進め方をご検討ください。

焼却を選択する場合は、まず対面にて詳細を説明します。
 「焼却」又は「焼却・埋却併用」ご希望の方や詳しい話を聞きたい方は川越家保・家畜防疫担当(049-225-4141)までご連絡ください。

